

日本 SEL 研究会第 14 回大会へのお誘い

○大会テーマ：「Well-being と SEL」

WHO によれば、well-being は単に疾病や障害がないことではなく、身体的、精神的、社会的に良好な状態を意味します。社会環境が大きく変化する中で、子どもについても well-being が注目されるようになり、SEL (社会性と情動の学習) の貢献が大いに期待されるところです。本大会ではこの面での現状を共有し、さらに今後の進展をともに考えていきたいと考えています。

○期日：2024 年 3 月 3 日 (日) 9:30 受付開始 10:00 開始 17:00 終了 (予定)

○会場：オンライン開催

○プログラム (概要)

1. 挨拶：10:00

2. 講演：10:10～12:00

「Well-being と SEL：スポーツ心理学の視点から」

講師 川端 雅人 (立教大学スポーツウエルネス学研究科)

コロナ禍では行動が大きく制限されたことにより、多くの人々の心身の健康が損なわれました。この未曾有の事態は、心身を'良い状態 (Well-Being) 'に保ちながら日々を過ごすために、人との適切な社会的関わり合いがいかに重要であるかを人類が再認識する機会となりました。本講演では哲学的観点に基づく二つの Well-Being の見方をご紹介した上で、Well-Being の維持・促進における SEL (社会性と情動の学習) の役割と重要性について、スポーツ・運動心理学の視点からお話しさせていただきます。(講師より)

司会 松本 有貴 (徳島文理大学)

3. 総会：12:00～12:30

4. 研究発表：13:15～14:15

5. パネルディスカッション：14:30～16:45

テーマ：「Well-being と SEL」

パネラー：小川 淳子 (ベネッセ教育総合研究所)

子どもの Well-being との研究調査 (アジアの 8 か国) を中心に

木村 直子 (鳴門教育大学)

子どもの Well-being の研究から

千田 伸子 (セカンドステップ)

Second Step の実践を中心に教育現場より

松本有貴 (徳島文理大学)

SEL の観点からの Well-being 向上の研究をもとに

司 会：小泉 令三 (福岡教育大学)

6. 閉会行事：16:45～17:00

7. (オンライン交流会：17:05～18:00)

○参加費：会員 1,000 円, 学生非会員 2,000 円, 非会員 4,000 円

○今後の日程

2024 年 1 月 31 日 (水) 研究発表申込締め切り

申込者には、別途、発表抄録テンプレートをお送りします (抄録は 1 発表につき 2 ページ以内)

2024 年 2 月 20 日 (火) 参加申込期限

○申込方法

「参加申込」「研究発表申込」先：日本 S E L 研究会ウェブサイト (<https://j-sel.org/>) よりお申し込みください。

<パネルディスカッションの話題提供概要>

●ウェルビーイングとレジリエンスの育成について ～アジア8か国で実施した調査結果をもとに考える～ チャイルド・リサーチ・ネット (CRN)・ベネッセ教育総合研究所 小川 淳子

CRNでは日本を含むアジア8か国の共同研究者とともに、コロナ禍における子どものウェルビーイングの状況と、その実現に必要なと考えられるレジリエンスに着目した質問紙調査を2021年8～11月に実施した。5歳児の母親のデータを分析した結果では、8か国共通で子どものウェルビーイングに本人のレジリエンスが強く関連していた。さらに、日本のデータを分析したところ、「家庭（保護者）」と「園（保育者）」のサポートがレジリエンスに関連していることが分かった。

この結果を踏まえて、保育者を対象にレジリエンスを育む実践に関するインタビュー調査を2024年1月に実施した。

本発表ではこれらの結果から、レジリエンスの育成について考える。

●子どものウェルビーイングを保障する社会を実現する取組

鳴門教育大学大学院 木村直子

子どものウェルビーイングとは、「子どもが心安らぐ安定した生活環境を持ち、希望や夢への期待をもって生活できる状態」、「子どもが健康で安定した生活を実現できている状態」（木村，2002）を指し、身体面のウェルビーイング、心理面のウェルビーイング、社会的場面でのウェルビーイング、自分の未来を想像する力の4つの下位概念からなる包括的な概念である。子どもを主体に子どもの健康や幸せを捉え直し、子どもの安全と健康の問題の本質と解決の方向性を探索するために、子どものウェルビーイングを規定する諸要因に関する実証研究と、そして子どものウェルビーイングを最善の利益に考える子どもとその家族への支援の実践、研究と実践の往復を支える施策（サービス・制度）の立案・計画など、これまでの取組について報告する。

●SELの学校現場への普及と定着 ～セカンドステップの実践から～

セカンドステップ 千田 伸子

「セカンドステップ」は、アメリカシアトルにあるNPO法人「Committee for Children(CFC)」によって開発された教育プログラムで、日本のNPO法人「日本こどものための委員会(cfcj)」が翻訳し、研修を行っている。

衝動的・攻撃的行動を和らげ、社会への適応力を高める方法を系統的に構成しているため、共感力を養いつつ問題解決のスキルを学ぶことができる。

しかし、教育現場での認知は低いのが現状である。そこで、とにかく授業を見て貰い、プログラムの重要性に気づいて貰うことを心がけ、現在は、愛知県東海市市内全18校で毎年3校ずつ授業が実践できるようになり、他の市町にも広がりつつある。

●SELの観点からのWell-being向上の研究をもとに

徳島文理大学 松本有貴

本発表では、多様なSELのとらえ方や実践を紹介し、SELが目的とするウェルビーイング（身体的にも、心理的にも、社会的にもよい状態）の実現について考える。

まず、SELのエビデンスを先行研究と最新のメタ分析から理解する。53カ国の424研究のメタ分析(2023年)では、SELは、スキル・態度・行動・学校風土と安全・仲間関係・学校機能・学業の向上に貢献すると報告されている。学校風土と安全、学校の機能という環境要因に対するエビデンスは興味深い。次に、SELの様々なとらえ方を概観し、私たち日本ではどうとらえているかを考えたい。また、SELの様々な実践例を紹介して、ウェルビーイングの向上につながるSELから日本のSELについて意見交換したい。